

ヨハネによる福音書 1章 35～42 節

今月の聖書は、イエス・キリストがバプテスマのヨハネの前に姿を現わされた後、公の生涯に本格的に踏み出される その第一歩を記した箇所です。前段からの推移を見てみましょう。

- ・前回の 1 章 29～34 節において、イエスがバプテスマのヨハネの前に姿を現わされます。
- ・今回は、「その翌日」(35) と記されています。それは、主イエスの公生涯の本格的な第一歩でした。

・そこにはどんな人物が登場するでしょうか。登場順に列挙すると、

1. (バプテスマの) ヨハネ
2. 二人の弟子：一人はアンデレ
3. イエス
4. シモン・ペトロ

となります。

・御一緒に考えたいのは、これらの中で今回、(イエスを別にして) 誰が主役を演じているかということです。つまり、イエスの公生涯の初めに(ヨハネ福音書が) 記す ①最初の主役は誰か、そして ②それはどんな人物で、③その者の出会った主イエスとはどんなお方だったか、さらには ④その主イエスはその者の内に何を起こされたのか、ということです。

- ・イエス以外の その主役とは、一読してお分りのとおり、アンデレです。
- ・ということで 早速、アンデレについて見ることにしましょう。

「二人の弟子 [が]・・・イエスに従った」(37)

・「二人の弟子」とは、①アンデレ (40) と ②あと一人の人物です。このもう一人の弟子については、ヨハネ福音書の伝承に関係した(と推察される) 12 弟子の一人のヨハネではないかとも言われています。

・アンデレもまた、この後 イエスの 12 弟子の一人となりますが、35 節の記述から、彼らは初めバプテスマのヨハネの弟子だったことが分かります。

・いずれにせよ、アンデレは、(ヨハネ福音書の記事に見るかぎり) イエス・キリストに従った最初の人物でした。

実際、初代教会において、アンデレは「初めに呼び出された者」と呼ばれてもいました。

・ちなみに、バプテスマのヨハネはイエス・キリストを指し示し、自らの弟子たちに主イエスを紹介しました(36～37)。その姿の内に、私たちはヨハネの何を見て取るのでしょうか。

「何を求めているのか」(38)

・アンデレたちは、イエスの後についていきます。

- ・そのとき、ふたりに気づいた主イエスが口にされた言葉がこれでした。「何を求めているのか」
- ・ヨハネの福音書が記す、イエス・キリストの第一声です。
- ・この問いかけの裏にある主イエスの思いとは はたして、何なのでしょう？
「本物の人生を生きたい」と考えるとき、その意味ははたして 何で、その重さはいったい どれほどものなのか。そこには何事か、大切な事柄が置かれているように思われます。

「・・・先生・・・どこに泊まっておられるのですか」(38)

- ・「何を求めているのか」とのイエスの問いに対し、しかし、アンデレたちは「どこに泊まっておられるのですか」と答えます。答えがとこか、問いと噛み合^あっていません。
- ・彼らはなぜ、ピントの外れた このような答えを返したのでしょうか。どうして、主イエスの宿泊場所などを尋ねたのでしょうか。
- ・そこに はたして、彼らの何が感じられるのでしょうか。

「彼は、まず自分の兄弟シモンに会って、『わたしたちはメシア・・・に出会った』と言った。

そして、シモンをイエスのところに連れて行った」(41～42)

- ・彼・アンデレはこうして、イエスのもとに泊まり、主イエスと夜通し語り合ったのでしょうか (39～40)。
- ・聖書は、アンデレが (おそらく) 翌朝 何をしたか、記しています。上記のように、自分の兄弟シモン・ペトロに会って イエスのことを話し、主イエスのところにシモンを連れていったのでした。
- ・何がアンデレをこのような行動に駆り立てたのでしょうか。
アンデレは主イエスに出会って、そこで何を見出したのでしょうか？
アンデレの心の動きを追うと、そこに何が見えてくるのでしょうか。

聖書に見る アンデレの幾つか・・・

以上が今月の箇所の概要ですが、聖書はアンデレについて、全体として 何を・どう書き留めているのでしょうか。他の箇所も含めてそれらを概観することで、アンデレの事柄を通して語られる聖書のメッセージ理解の参考にできればと思います。

アンデレをめぐる聖書の記述は ほぼ3つの点に特徴づけられます。

1. 一つは、アンデレを紹介する際の その紹介の仕方です。

すなわち、アンデレはほとんどの場合、「シモン・ペトロの兄弟 アンデレ」(40) というふうに、兄ペトロの名を介して紹介されています。

2. また一つは、大舞台や劇的な場面に、アンデレの姿がほとんどないことです。

例えば、イエス・キリストの姿が変貌^{へんぼう}した「山上の変容」のときも、会堂長ヤイロの娘の 甦^{よみがえ}りのときも、また 最後の十字架を目前にしたあのゲッセマネの園での祈りのときも、そこにアンデレの姿はありません。

3. そして3つ目は、何かをなしたという意味で聖書にアンデレのことが記されているのは ただ3箇所だけということです。その3箇所とは、次のとおりです。

①イエスに出会って そのもとで^{ひとばん}一晩を過ごし、翌朝、兄弟のペトロを主イエスに引き合わせた(今月の箇所)。

②イエスが5つのパンと2匹の魚で群衆に食事を与えた「5,000人の給食」の折、子どもの持っていたパンと魚を主イエスに差し出した(ヨハネ 6:1~15)。

③エルサレム訪問中のギリシア人数人がイエスへの面会を申し出てきたとき、その彼らを主イエスに取り次いだ(ヨハネ 12:20~22)。

しかも、これらのどれもが、目立たないほんのちょっとしたことばかりです。

.....

今月の箇所を含め、聖書が記すアンデレのこうした姿から、私たちは何を読み取り、どんなメッセージを聴き取るでしょうか。

- ・アンデレの出会いとは？
- ・アンデレの思いとは？
- ・アンデレの人となりとは？
- ・アンデレの信仰とは？
- ・何がアンデレをそのような人間にしたのか？
- ・アンデレを介し、何が引き起こされたか？
- ・それらは何を意味し、そこから何を学び取るのか？